

外部評価 実施日	6年 2月 27 日
-------------	------------

(別紙2-4)

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 太子福祉会	代表者	荒尾 潤	法人・ 事業所の 特徴	「ほんまもん」の介護を追求し、地域社会に貢献することを経営理念に基づき家庭的で心温かい施設を目指しています。通いを中心に訪問・泊りを組み合わせて柔軟に対応している。配食サービスも行い、訪問サービスは充実している。
事業所名	陽だまりの家 小規模多機能型居宅介護	管理者	河合 真由子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	4 人	人	2 人	1人	人	5 人	人	13 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員全員で事業所自己評価に取り組み、質の向に向けて情報を共有していきます。	コロナ禍で会議が行えなかった為、職員全員に周知する事が出来なかった。	コロナ禍で会議が行えず、改善計画の取組みが分からないと意見があった	自己評価を振り返り、質の向上に向けて分析し改善していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	外観をきれいに保つよう普段から意識し清掃を心がけます。	定時に清掃とアルコール消毒を行えた。季節に合った飾りを作成出来た。	各ユニットでの取組みがよくわかった。	感染症に配慮しながら、利用者にとって利用しやすい環境づくりに取り組む。外出の機会を増やしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナ禍でも出来る交流について、検討し実施します。	コロナ感染症対策で地域行事への参加を初め、地域の方との交流も十分に出来なかった。	コロナ禍で地域とのかかわりが少なかった。	出来る交流については検討していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	感染状況や利用者様の希望に配慮し、地域の方と交流する場を広げていく。	コロナ禍で地域の方との交流は出来なかったが、少人数での外出の機会を増やす事が出来た。隣接することも園との園児との交流を図る事が出来た。	新型コロナウイルスの感染も徐々に落ち着きだしている中で、地域との関わりや活動を再開していくのが良いのではないのか。	利用者・家族にとって居心地のよい雰囲気づくりの為、利用者からの要望を聞き、職員間で話し合いを行う。小規模多機能型居宅介護の役割や特色を知っていただくように努力する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	事業所の有る地域の情報収集に努め、運営推進会議での情報、ご指摘に取り組み、対応する。	運営推進会議で地域の情報とご指摘頂いたが、地域に向けての希望依頼が出来ず十分には対応出来なかった。	地域の方々が何をしたらいいのか提案をしてほしい。	運営推進会議に家族・地域住民代表の方の参加を引き続きお願いし、運営に関する意見を頂き、運営に反映させていく。
F. 事業所の防災・災害対策	定期的に防火防災訓練を実施する。	確実に訓練を実施出来た。	地震、津波などの自然災害の際、施設の避難場所としての受け入れはどのように考えているのか。	近隣の地形を把握し、事業所内において自然災害のリスクを把握し、避難訓練時に実効性を検証する。